

試験研究成果普及情報

部門	果樹	対象	普及
課題名：種子なしビワ品種「希房」の大苗育成技術			
[要約] 種子なしビワ品種「希房」の接ぎ木苗の育成方法は、1月中～下旬に揚げ接ぎし、直径 25cm の布製ポットに移し、加温施設で養成することにより、活着率 90%以上で、通常より生長量が多く、移植に適した大苗を育成することができる。			
キーワード 種子なしビワ、大苗、接ぎ木、育苗ポット、苗木			
実施機関名 主 査 農業総合研究センター・暖地園芸研究所・果樹研究室 協力機関 JA安房温室びわ組合			
実施期間 2004年度～2006年度			

[目的及び背景]

種子なしビワの早期産地化に適した苗の要件としては、定植から収穫開始までの期間が短いこと、低樹高栽培に適した分枝の多い苗であること、育成した苗は移植が容易な形態になっていることの3点があげられる。そのため、活着率が高く、幹が太く、葉数及び枝数が多い大苗が望まれている。そこで、苗木生産方法として、ポットの種類（布と塩化ビニール）、ポットの大きさ（直径 20cm と 25cm）、接ぎ木方法（揚げ接ぎと居接ぎ）、接ぎ木時期（1月と3月）及び栽培方法（施設と露地）の試験区を設け、生育に及ぼす影響を比較し、大苗育成技術を確立する。

[成果内容]

- 1 ポットの種類・大きさでは、布製 25cm 区（直径 25cm、高さ 25cm、底面は防根布）において生長量（幹径、樹高、葉数、枝数）が最も大きかった（表 1）。
- 2 接ぎ木方法では、揚げ接ぎ区において分枝の多い 1 等苗が多かった（表 2）。
- 3 接ぎ木時期では、1 月区において幹径が大きかった（表 3）。
- 4 栽培方法では、施設区において活着率が 90% 以上と高く、また生長量（幹径、樹高、葉数）も大きかった（表 4）。

[留意事項]

- 1 接ぎ木後はポット内の温度上昇と乾燥防止のために、ポットは土中に容器の 8 分目までうめて管理する。
- 2 接ぎ木後は、接ぎ木部にビニール袋をかぶせると、発芽が 1 週間程度早くなる。発芽後は直ちに外す。
- 3 2 年生までに定植すると植え痛みはほとんど起こらない。
- 4 この技術は、二倍体の栽培品種の苗木育成にも利用できる。

[普及対象地域]

県内のビワ栽培地域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 「希房」におけるポットの種類・大きさが苗の生長に及ぼす影響(現地2圃場の平均、2年生苗)

ポットの種類	接ぎ木本数	活着率(%)	幹径(cm)	樹高(cm)	葉数(枚)	枝数(本)
塩ビ製	120	93	1.9a	71a	24a	0.7a
布製20cm	50	94	2.0a	86ab	37b	2.4b
布製25cm	50	92	2.2b	100b	40b	6.0c
分散分析	-	N.S.				

接ぎ木後の育苗方法：施設内で夜温最低気温5℃で管理

接ぎ木日：平成17年1月25、26日

調査日：活着率は平成17年11月17日、それ以外は平成18年11月20日

統計処理：同列内の異なるアルファベットは5%水準で有意差あり(Tukeyの多重比較検定)

表3 「希房」における接ぎ木時期が苗の生長に及ぼす影響(暖地園芸研究所、2年生苗)

接ぎ木時期	接ぎ木本数	活着率(%)	幹径(cm)	樹高(cm)	葉数(枚)	枝数(本)
1月19日	32	93	1.7	58	21	0.3
3月30日	20	94	1.4	50	26	0.6
分散分析	-	N.S.		N.S.	N.S.	N.S.

接ぎ木後の育苗方法：施設内で夜温最低気温5℃で管理

調査日：活着率は平成17年11月17日、それ以外は平成18年11月20日

：t検定(P<0.05)で有意差あり

表2 「希房」における接ぎ木方法が苗の生長に及ぼす影響(現地2圃場の平均、2年生苗)

接ぎ木方法	接ぎ木本数	活着率(%)	幹径(cm)	樹高(cm)	葉数(枚)	枝数(本)	1等苗率(%)
居接ぎ	160	94	2.1	85	33	1.8	19
揚げ接ぎ	60	90	2.2	87	42	4.3	58
分散分析	-	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	N.S.	

接ぎ木後の育苗方法：施設内で夜温最低気温5℃で管理

接ぎ木日：平成17年1月25、26日

調査日：活着率は平成17年11月17日、それ以外は平成18年11月20日

1等苗：枝数が4本以上

：t検定(P<0.05)で有意差あり

表4 「希房」における接ぎ木後栽培方法が苗の生長に及ぼす影響(暖地園芸研究所、1年生苗)

接ぎ木後育苗方法	接ぎ木時期	接ぎ木本数	活着率(%)	幹径(cm)	樹高(cm)	葉数(枚)	枝数(本)
施設	2月7日	25	96	0.9	20	14	0.0
	3月13日	25	100	0.8	16	13	0.0
露地	2月7日	25	28	0.6	7	6	0.0
	3月13日	25	40	0.7	6	4	0.0
施設平均	-	50	98	0.8	18	14	0.0
露地平均	-	50	34	0.7	6	5	0.0
分散分析	-						N.S.

施設：夜間最低気温5℃で管理

調査日：10月17日

：施設平均と露地平均において、t検定(P<0.05)で有意差あり

[発表及び関連文献]

平成16～18年度暖地園芸試験成績書

平成16～18年度農林水産試験研究高度化事業報告書

[その他]

- ・農林水産試験研究高度化事業「課題名：世界に先駆けた種子なしビワ品種「3N-N28」の産地定着技術」